

19. ペチュニア

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	サンヨール	散布	開花前まで	8回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤー 1 粒剤	植穴土壌混和	定植時	1 回	
4	ベストガード粒剤	培土混和	定植前	1 回	花き類・観葉植物(きく、きんせんかを除く)

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注3) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
うどんこ病 (F)	生 育 期 間	1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、 薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. サンヨール 500 倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤を連用しない。
ウイルス性 病害 (BBWV) (ToRSV) モザイク病 (CMV) (TMV) (V)	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、育苗時の感染に厳重注意する。 2. アブラムシ類防除のため、「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 病原ウイルスのうち、CMV、BBWVはアブラムシ類により媒介され、ToRSVは土壌線虫により土壌伝染、種子伝染し、TMVは土壌伝染する。
アブラムシ類	定 植 前	[参考農薬] 1. ベストガード粒剤を培土 10 当たり 3 ～ 5 g 混和する。	
	定 植 時	[参考農薬] 1. アドマイヤー 1 粒剤を 1 株当たり 1 g 植穴土壌混和する。ただし、10 a 当たり 3 kg までとする。	1. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。